FUKUSHIMA YUME-TSUSHIN　2024 APRIL

市民フォト

ふくしま夢つうしん

福島市
56
2024年４月

CONTENTS

特集
地域で慈しみ守り継ぐ、
花と里山を巡る春散歩…2

ふくしまの魅力人
かんたファーム代表
菅田 美嘉さん…6

インフォメーション
ふくしま花回廊デジタルラリー…8

特集

地域で慈しみ守り継ぐ、花と里山を巡る春散歩

待ちに待った春。うららかな日和は、市内に数多くある花の名所を訪ねて季節を満喫しましょう。今年は市街地から離れて南へ。福島市松川町にある花の里「水原地区」からスタートしてみませんか。地元の皆さんが植栽や保護を続けてきた桜や、クマガイソウをはじめとする山野草など、可憐な花々が出迎えてくれますよ。

里山が広がる水原地区を 一年に一度、淡いピンクに染めるしだれ桜

右輪台山のしだれ桜

見頃／4月上旬～中旬
料金／無料（お気持ちで協力金をお願いします）
所在地／福島市松川町水原右輪台地内
駐車場／無料駐車場あり
開花期間中「右輪台山しだれ桜まつり」を開催。18:00～21:00にライトアップをします。土日は出店もあります。

撮影：市民カメラマン 梅津直樹さん

水原右輪台山のしだれ桜を育てる会 会長
丹野 政光 さん

1952年生まれ。代々続く農業を受け継ぎ生業としてきた。2019年、関北町内会長を引退する際、「水原右輪台山のしだれ桜を育てる会」を立ち上げ、会長を引き継ぎ現在に至る。

地域の環境保全に取り組む団体から譲り受けた桜

こんな桜のトンネルになるとはね。25年前は、想像もしませんでした（笑）きっかけは、魅力ある地域づくりと環境美化を目的に、1992年に立ち上げた「活性化集団水原21」です。私もメンバーの一人で、今も活動を続けています。当初は単年度の事業を続けていたのですが、1998年に3年計画で「みずはら花の里づくり」に取り組みました。助成金をいただいてサルスベリやモミジなどを植えて、花いっぱい運動を展開したんです。初年度にしだれ桜の苗を千本購入しました。苗は水原地区の320世帯に配布したほか、集会所や神社仏閣に植えました。ほかに植える所はないかと話をしていた時に、「右輪台山がある」と提案しました。

枯れ枝の整理や側溝の清掃をする「水原右輪台山のしだれ桜を育てる会」の会員

撮影：市民カメラマン 半沢剛司さん

日が沈むと手作りの行灯が灯り桜並木を照らす。昨年は、北海道や首都圏など全国から約2万人以上が訪れた。

右輪台山は、もともと桑畑だったところで、養蚕業の衰退と高齢化で荒廃する一方だった場所です。丘陵地帯のほぼ真ん中に、全長約560mの道があり、その両側に桜を植えたら、みんなで花見ができると思いました。「それはいい！」とみんなが言うので、当時の関北町内会長に相談して、地権者全員に許可をいただき、桑の木を抜くなど準備を進めました。

108本の桜が人を動かし人を集め地域を元気にする

1999年3月、右輪台山にしだれ桜を植えました。みんなで剪定や草刈り、消毒、追肥など手入れを続けた甲斐があって、育ってきましてね。108本のしだれ桜のトンネルを愛でながら、町内会でお花見ができるまでになりました。そうこうしているうちに、桜を見に来る人が増えたので、2013年から「右輪台山しだれ桜まつり」を開くようになりました。

私と同年代の仲間たちから「何かしたい」「ライトアップはどうだろう」などの声が上がったことから、2019年に「水原右輪台山のしだれ桜を育てる会」を立ち上げました。町内会全員が会員です（笑）3月になるとみんなで枯れ枝の整理や側溝の掃除、行灯などの準備をして、祭りに備えます。祭りの期間中は交通整理もします。2022年からは会のメンバーが土日限定でお店も出すようになり、お客さまに喜ばれています。

花と里山の風景の中に人の暮らしが溶け込む水原地区

私が好きな風景は、空気が澄んでいる朝の桜並木です。小高い丘の上にあるので眺めも良く、西は残雪の安達太良山、東は千貫森も楽しめます。8年前、右輪台山の近くにソメイヨシノを100本植えました。成長したら水原地区2カ所で桜並木を楽しめるようになります。

水原地区の魅力は、桜はもちろんですがやはり自然です。皆さんの記憶に残る原風景。山や川、田んぼ、畑と広がる里山と花の中に、人々の暮らしが溶け込んでいるところ。ぜひそこも見てほしいですね。

絶滅危惧種のクマガイソウが群れ咲く
全国でも希少な自生地

クマガイソウの里

撮影：市民カメラマン 半沢剛司さん

見　頃／５月上旬から３週間程度
料　金／保護活動協力金１人300円（中学生以上）
所在地／福島市松川町水原字鎌倉山地内
駐車場／無料駐車場あり
鑑賞路／駐車場から徒歩500m（歩きやすい靴でお出かけください）
開花期間中「クマガイソウの里まつり」を開催。期間中駐車場内に仮設トイレあり。

水原の自然を守る会　会長
鈴木　孝（すずき たかし）さん

1954年生まれ。会社勤めをしながら、代々続く田畑で水稲と山菜を生産する兼業農家を営む。20年にわたり水原の自然を守る会で活動し、2021年に３代目会長を引き受ける。「クマガイソウの里まつり」では、地元のそば打ち会の会員の一人として腕を振るう。

約30年前、偶然発見 22年前に守る会を設立

水原地区は、地域を元気にしていこうという思いが強いところです。「活性化集団水原21」や「ド田舎水原郷（むら）そば打ち会※」など、複数の団体が活動しています。「クマガイソウの里」は、1991年頃、地区の先輩方が群生地を見つけたのがそもそもの始まりです。当時は、まだ500株から600株くらいだったそうです。盗掘被害などもあり、2002年に「水原の自然を守る会」を立ち上げ、保護活動を始めました。2009年には、地域環境保全功労で環境大臣表彰を受けました。そうした先輩方の思いを次世代につなげていきたいと思い、会長を引き受けました。会員は現在35人で、水原地区外に住んでいる会員もいます。

福島大学の先生の助言のもと 地域の宝を守り次世代へ

主な活動として、秋に行う木道修理、3月の枝払いや下草刈り、案内板などの準備があります。5月の開花期間中は、交代で「クマガイソウの里まつり」の受け付けや駐車場係、安全管理などを担います。日当たり具合を見極めてからの枝下ろしなどは、福島大学でクマガイソウの研究をしている先生に、長年にわたりアドバイスをいただいています。

苦労は、やはり自然災害です。2019年の台風19号の際は、山道が川のようになり復旧作業に時間がかかりました。そんな中、原動力になっているのが、無償で保護し続けてきた先輩方の思いです。その思いを次世代へ継承していくことが、今後の課題です。これまでは福島市立水原小学校の子どもたちと一緒に、クマガイソウが咲く自然を守ってきたのですが…。2023年3月に閉校したため、今後どんなふうに子どもたちと関わりを持っていくか、考えているところです。

木道の修理や下草刈りをする「水原の自然を守る会」の会員

山野草ファンが遠方から訪れる群生地。5月に開花

水原地区は、3万7千株のクマガイソウが自生している全国でも珍しい場所です。クマガイソウは、地下茎で自然に増えても、開花までに3年を要します。しかも株数の維持が難しい植物で、花粉を運ぶマルハナバチの保護など、周辺の環境保全も含めた自生地の管理が必要です。

2022年に行った株数調査の結果は、地上茎数が3万7千株、開花数が1万1千株でした。6年前の調査より開花数が倍に増えたので、今年も楽しみにしているところです。増えた理由は一概には言えませんが、その年の気象や木漏れ日の当たり具合とか…そういうものもあるかもしれません。でも、本当にうれしい結果でした。

近年は、九州や北海道など、遠方から来られる方も増えています。「来てよかった」と言われるとうれしくなります。ニリンソウやヤマブキソウなど、多様な山野草を見られるのも魅力です。2日から3日で散ってしまうヤマシャクヤクも咲きます。短命花なので、タイミングが合えばほんとにラッキー！

「第20回クマガイソウの里まつり」は、5月上旬から始まります。斜面一帯に咲くクマガイソウが、同じ方向を向いて出迎えてくれます。ぜひご覧になってください。

「クマガイソウの里」に咲くヤマブキソウ。多様な山野草も楽しむことができる。

※そば打ち技術の向上、食文化の保存を主な目的として2002年に設立。水原産のそば粉を使用し、そば打ち技術の向上に励んでいる。

ふくしまの魅力人（みりょくびと）

Mika Kanta

3つの事業を柱に掲げて多忙な毎日を過ごす菅田さん。今、やってみたいことは　みんなで畑をシェアする仕組み「ファームシェアリング」。

東北中央自動車道福島大笹生（おおざそう）インターチェンジから車で約25分。菅田美嘉さんが代表を務める「かんたファーム」は、福島市大笹生大平（おおだいら）地区にあります。2021年にオープンした「農園リゾート　ワイルドキャンプ場」は、テントサウナやドラム缶風呂、4輪バギーのオプションのほか、無料で楽しめる農業体験もあり、大自然に囲まれて過ごすことができます。限界集落となった一角を受け継ぎ、訪れる人々を幸福感で満たす癒やしのスポットに作り変えた菅田さんをご紹介します。

かんたファーム代表
菅田（かんた） 美嘉（みか）さん

福島市生まれ。高校卒業後、就職。結婚・出産を機に退職。リラクゼーションサロンを実家の敷地の一角で始める。同時に兼業農家として週末農業（モモ50a、水稲30a、畑40a）にいそしむ両親を手伝うべく、「かんたファーム」の野菜やモモの産地直送販売を始める。2012年、個人事業を法人化し「株式会社ライフロープ」を設立、リラクゼーションサロンとかんたファーム（産地直送販売・農業体験ファームステイ）を事業の柱とする。2021年、三本目の柱「かんたファーム 農園リゾート ワイルドキャンプ場」をオープンさせる。

2012年、個人事業を法人化 農業体験ファームステイを始める

江戸時代から続く農家の長女として生まれた菅田美嘉さん。リラクゼーションサロンと両親の農業のサポートを始めたのは、子育てをしながら自分にできることを考えてのことでした。するとリラクゼーションサロンは、約10年の間に23店舗を構えるまでに。

順風満帆と思っていた矢先、東日本大震災が起きました。さまざまな困難を抱えた福島を元気にできないかと、2012年に個人事業を法人化し「株式会社ライフロープ」を設立しました。「ライフをロープで繋いでいくという願いを込めました。」以来、リラクゼーションサロンと、産地直送販売・農業体験ファームステイを二本柱に、暮らしだけでなく人と人も繋いできました。

かんたファームの農業体験ファームステイは、当初から宿泊費（食事付き）は無料です。その理由を菅田さんは、こう話します。「うちは減農薬、完熟堆肥、竹パウダーで野菜や果物を作っています。堆肥を一輪車で運んで畑にスコップで撒いたり、トラクターを使った作業や野菜の種まき、苗の植え付けをしたりなど、どの体験も本気の農作業なので、お金をいただくのは申し訳ない。お礼みたいな感じで食事付きで実家に泊まっていただいています。コロナ禍前は、外国人の方もたくさん来ていました。」

かんたファームの加工品「おおざそうピクルス」。道の駅ふくしまで販売中。

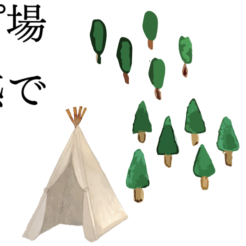
限界集落に広がる畑で気づいた星空の美しさと大自然の力

東日本大震災から9年後、今度はコロナ禍で事業を見直すことに。「両親も80歳を過ぎたので、跡継ぎの私がさらに農業に力を入れなければならない状況になりました。そこで、リラクゼーションサロンの事業を縮小することにしました。」

感染対策をしながら農業体験を受け入れていると、首都圏や外国人からの申し込みがなくなったかわりに、単身赴任で福島市内に暮らす方や大学生が、毎週のように来てくれるようになったとのこと。そんなある日、大平地区で何気なく夜空を見上げると満天の星！「もともとここは、終戦後に国の集団帰農を希望した海外からの引き揚げ者や、疎開者などが切り開いた開拓地でした。1971年に国の開墾支援が打ち切りになると過疎化が進み、限界集落になってしまいました。私の大叔父も開拓団の一人で、後継者がいなかったので父が土地を引き継ぎました。」

農業体験を通して大自然の中で過ごすことや、いつでも気軽に行ける居場所があること、働く喜びなどが、以前にも増して癒やしにつながると感じるようになっていた菅田さん。「遊休農地や山林を生かしてキャンプ場にすれば、大平地区の魅力をたくさんの人に伝えられるし、癒やしの場所になるのではと思いました。」

限界集落に作った
ワイルドキャンプ場
訪れる人を幸福感で
満たす大自然



開拓地の自然を生かした シンプルな手作りキャンプ場

構想から約1年。念願のワイルドキャンプ場は、2021年にオープンしました。農業体験でつながった皆さんに協力していただき、チェーンソーやのこぎりで茂り過ぎた木を伐採するところからスタートした、まさに手作りのキャンプ場です。設備はシンプルですが、野鳥のさえずりや風の音に加えて、夏はカブトムシ、秋は紅葉、冬は銀世界と、自然の醍醐味を満喫できます。また、空の青と大自然の緑に祝福されるウエディングフォトのロケ地としても喜ばれているそうです。春は山菜のシーズン。喧騒を離れて出かけてみてはいかがですか。

キャンプは、フリーサイト（2名）3,500円～。4輪バギー体験もできる（有料）。

福島市の 花回廊スポット 観光スポット 飲食店 を巡って スマホでスタンプをGET！ 豪華賞品を当てよう！

【応募期間】
抽選は期間中、3回行います
1回目:3/21㊍～4/30㊋
2回目:5/1㊌～5/31㊎
3回目:6/1㊏～6/30㊐

賞	内容	当選数
ふくしま三名湯賞	飯坂温泉・土湯温泉・高湯温泉のいずれかで使える宿泊補助券 20,000円分	15名様
ふくしま地酒賞	福島で丁寧に作られたおいしいお酒 4,000円相当	180名様
ふくしまスイーツ・プレミアム賞	福島市産の農産物を使ったスイーツなど 4,000円相当	180名様
ふくしまグルメ賞	バラエティ豊かな福島のうまいもの 3,000円相当	210名様
ふくしまおいしいお米賞	地元自慢の福島市産こしひかり 2kg	1,344名様
Wチャンス ふくしま花回廊特別賞	道の駅ふくしま・道の駅つちゆ・福島県観光物産館商品詰め合わせ 4,000円相当 ※花回廊スポット10か所でスタンプを獲得した方が対象。	50名様

簡単3ステップ 参加方法

ステップ1 LINEから参加登録！
ふくしま花回廊デジタルラリー LINE公式アカウント

ステップ2 各スポットを訪れ、スマホでQRコードを読み込む
- 花回廊スポット・観光スポット：各スポットに設置されているQRコードを読み込む
- 飲食店：飲食後、お支払い時にレジでQRコードを読み込む

→ スタンプを取得！

ステップ3 スタンプを4個集めて応募！
例: 花回廊スポット 花回廊スポット 観光・飲食スポット 観光・飲食スポット
※スタンプ4個のうち2個以上花回廊スポットで取得することが応募の条件となります。

詳しくはこちら▼

※QRコードは㈱デンソーウェーブの登録商標です。

問／ふくしま花回廊デジタルラリー事務局　TEL 024-525-3722

市民フォト・ふくしま夢つうしん
2024年4月1日発行
2024年4月号 No.56

福島市公式SNS

編集発行 福島市広聴広報課
〒960-8601 福島市五老内町3-1
TEL 024-525-3710 FAX 024-536-9828
E-mail:kouhou@mail.city.fukushima.fukushima.jp

夢つうしんバックナンバーは市ホームページで！

FREE Wi-Fi Fukushima City

表紙紹介
水原地区に自生するクマガイソウ

絶滅危惧種に指定されているラン科の多年草で、大きな袋のような唇弁が特徴的。大量に自生している場所は非常に珍しく、全国でも数か所しかありません。
撮影：市民カメラマン 川崎之子さん

※次号は2024年7月発行予定です。

【お詫びと訂正】2024年1月号P6下段の「陣野原幸紀さん」は正しくは「陣野原幸紀さん」でした。お詫びして訂正いたします。